

平成29年度第1回健康都市推進市民会議 会議録

開催日時	平成30年1月26日（金）午後6時30分～午後7時35分
開催場所	大和市役所 会議室棟 101会議室
出席状況	委員 健康都市推進市民会議 6名（2名欠席）： 近藤委員、伊藤委員、鴨下委員、菅沼委員、中川委員、西川委員
	事務局 2名：政策総務課長、総務調整担当1名

【議事】

大和市健康都市プログラム（平成29年度改訂）について
その他

【議事要旨】

1. 大和市健康都市プログラム（平成29年度改訂）について

○健康都市プログラム（平成29年度改訂）について事務局から説明を行った。主な質疑、意見等は次のとおり。

<質疑>

委員：本市における高齢者の総数とそれに対する要介護2以上の方の比率など把握しているか。医療費（国民健康保険の1人あたりの医療費）などが低く抑えられているように見えるが、本市は高齢化率が低く、それが影響しているに過ぎない。高齢者のデータを把握、分析する必要があるだろう。

事務局：事務局では詳細は把握していないが、ご指摘のとおりであり、担当課が分析している。国民健康保険の1人あたりの医療費についても、全国や県よりは低いものの上昇カーブが急になってきており、原因などについて担当課で分析を行っている。

委員：はいかい予防の小型GPS端末入りの靴はどれくらい普及しているのか。はいかいについては、防災行政無線でもたびたび耳にする。有効な取り組みだと思うので、広く普及してほしい。

事務局：利用数については事務局では把握していないが、今年度から始めた事業である。担当課（高齢福祉課）において、広報やまと、市ホームページ等で周知を行っている。※注

委員：是非積極的にPRしてもらいたい。高齢者はホームページはあまり見ないと思うので、周知方法も工夫するべき。

事務局：市の広報活動については様々なご指摘をいただいております。広報やまと、ホームページの他、やまとニュース、PRボードなど、多様な媒体で広報するように取り組んでいるところである。

委員：「はいかい高齢者個人賠償責任保険」の補償額は3億円と高額だが、加入者数はどれくらいか。

事務局：補償額については、鉄道事故などを考慮して高額になっている。対象は、「はいかい高齢者等SOSネットワーク」の登録者であり、事業開始時点で約200人ほどだった。

委員：「大和市健康都市プログラム」は図書館にはあるのか。図書館があれば貸し出して家で読んでもらうこともできてよいと思う。

事務局：図書館の貸し出し図書にはなっていないが、ほとんどの市施設で閲覧いただけるように配

架している。

委員：健康都市推進のための取り組みが増えてきており評価できる。今後は、それぞれの取り組みの効果を検証し、効果的な予算配分などに活かしていければ更によいと思う。

事務局：健康については、効果検証が難しいという面もあるが、成果を数値的に検証することの重要性は承知しており、基本的にはPDCAサイクルに沿って運営していく考えである。

委員：健康寿命については、医療技術の進歩に従い、不健康な期間が延びるのは避けられないと思う。健康なうちに、不健康な期間をどう圧縮するか、不健康になったらどうするかについて考える機会を設けることが重要ではないか。

事務局：ご指摘のとおり、健康なうちに健康について関心を持っていただくことは非常に重要であり、その点を考えながら事業を実施しているところだが、一般的に7割の方が健康に無関心、或いは関心はあるが、仕事などで忙しく、健康への取り組みの優先順位が低いといわれており、啓発だけでは難しいところがある。そのため、「街づくり」の中で、例えば、歩きやすい街づくりを行うことなどで、市民の健康増進に寄与していくという取り組みも重要であると考えている。

委員：自治会や老人会などに市から講師を派遣してもらって話を聞くと非常に盛り上がる。そういった小さな集まりから取り組みを広げていくという方法もある。

委員：高齢化、介護の観点からいうと、予防が医療のテーマとなってくる。高齢者では転倒が非常に大きなリスクであり、転倒を経験すると要介護になったり、自分でできることが減ってしまうなど、QOL (Quality Of Life) が上がらないというデータがある。転倒させないという取り組みが必要だと思う。

事務局：健康づくり推進課、高齢福祉課などでオリジナル体操の普及などの取り組みを行っている。

委員：介護が必要な方向けの体操が中心で、転倒予防としては有効な対策とは考えづらい。

委員：街づくりという観点でも、転倒させないための取り組みは可能だと思う。鶴間駅から泉の森に向かって歩道が整備中だが、自転車も通れるようにしているように見受けられる。完成すると、高齢者にとってはかえって危険になるのではないかと心配している。

事務局：本市は移動しやすい街を目指して、自転車走行レーンの整備に力を入れている。担当課でも歩行者の安全にも配慮して整備していると思うが、担当課には確認する。

委員：自転車走行レーンに車が停車していることが多く、避けるために歩道に戻ったり車道の真ん中近くを走ったりしなくてはならず、かえって危険を感じることもある。

事務局：基本的には歩行者と自転車を分離して安全を図るという考え方だが、自転車走行レーンの整備だけですべての問題が解決するわけではない。自動車の運転者への普及啓発等も必要である。

委員：交通事故の中では自転車が関係するものが最も多い。問題が全て解決するわけではないが、自転車走行レーンを整備することで自転車の事故が減ったというのも事実である。

※注(事務局補足) はいかい予防の小型GPS端末入りの靴については、はいかい高齢者個人賠償責任保険と同様、「はいかい高齢者等SOSネットワーク」の登録者を対象としており、地域包括支援センターで相談に応じている。

利用にかかる自己負担は所得に応じて無料～1,000円/月となっている。

2. その他

「健康都市やまとフェア2017」実施結果について事務局から報告を行った。質疑は特になし。

以上